▲開通した高知山田線

高知山田線伏原区間開通

平成９年度から整備を進めてきた都市計画道路高知山田線（全長１，０２０ｍ）のうち、開通していた部分を除く、残り４３０ｍ（土佐山田町伏原）が完成し、８月１日に開通しました。

これにより、香美市中心市街地の交通渋滞が緩和され、高知工科大学や高知テクノパーク等への道路交通網が強化され、地域の発展が期待されます。

市体育に貢献

体育協会表彰

６月２９日、香美市役所で**平成２３年度香美市体育協会表彰式**が行われました。

特に優秀な成績や記録を収めた個人・団体に贈られる優秀賞として、**第２３回香北弓道錬成大会成年女子の部**で優勝された市原公三子さんが表彰されました。

また、体育・スポーツの普及振興に功績のあった方や選手育成指導面で功労のあった方に贈られる功労賞に、小松順子さんが表彰されました。

小松さんは、昭和５８年に土佐山田なぎなた会へ入会以来、長年にわたり会員の育成と会の発展に尽力されました。

▲小松順子さん

▲市原公三子さん

姉妹都市交流だより

土佐山田まつりへ

積丹町から踊り子参加

８月４日に開催された**第４４回土佐山田まつり**に**姉妹都市北海道積丹町**から３名が訪れました。

当日は、６月のYOSAKOIソーラン祭りに参加したメンバーらで結成された**姉妹都市合同チームヤーレンソーラン積丹町＆香美市**に積丹町の踊り子が加わり、商店街を踊り、交流を深めました。

◀参加した積丹町の皆さん

繁藤災害慰霊祭

７月５日、**第４１回繁藤山崩れ殉職・殉難者追悼慰霊祭**が哀悼の広場（土佐山田町角茂谷）で執り行われました。慰霊祭に先立ち、繁藤小中学校児童生徒が、自分たちで折った千羽鶴をささげ、黙とうを行いました。

慰霊祭には遺族や関係者ら約１１０人が参列し、犠牲者のめい福を祈りました。

遺族会長の西岡統一さんのもとには、児童生徒の作文が届けられ、小学低学年の児童が書いた作文には「命のおかわりはない」と書かれていました。

遺族代表の山中啓二さんのあいさつでは、「当時２２歳だった私も６２歳になった。現場の悲惨な状況は今も忘れることはない。４０年の月日が知らない災害へと変えている。後世に伝えていくことが、遺族会の使命である」と涙ながらに話しました。

故郷の農業発展に向けて

姉妹県州農業実習生帰国

８月２８日、フィリピン・ベンゲット州から香美市の農家へ派遣された５人の農業実習生が３年間の実習を終えて帰国しました。

同州は１９７５年７月から高知県と姉妹県州提携を行っており、**くろしお農業振興協同組合**（須崎市）と**高知東部農振協同組合**（土佐山田町神母ノ木）で実習生の受け入れ事業が行われており、県内の農家へ１２８人が受け入れられています（平成２４年８月現在）。

この受け入れは、実習生の派遣機関が民間でなく、州政府であるところに特徴があり、秩序ある在留管理により、地域に溶け込んだ実習生受入事業で、実習を終えて帰国した青年たちは**ベンゲット・日本農業研修多目的協同組合**を作り、同州の農業発展のために活躍しています。

▲帰国前の記念撮影

聞くチカラが自分を変える

▲講師の藪原秀樹さん

７月２１日、中央公民館で**第７回香美市生涯学習推進大会**が開催され、３１９人が参加しました。

大会はテーマを**『まなび・交流・心豊かな人とまち』**とし、**「早ね　早おき　朝ごはん」県民運動キャラバン隊**の舞台劇によりにぎやかに始まり、山田小学校・繁藤小中学校・クラブ香美INGが、活動報告を行ったほか、参加した子どもが楽しめる企画として、工作教室・スタンプラリー・絵本の読み聞かせなどが行われました。

また、講師に株式会社わもん代表取締役藪原秀樹さんを招き、**『聞くチカラが自分を変える～香美市が変わる～』**と題して、聞くことについての体感参加型の講演が行われました。参加者は和やかな雰囲気の中、聞くチカラを育みました。